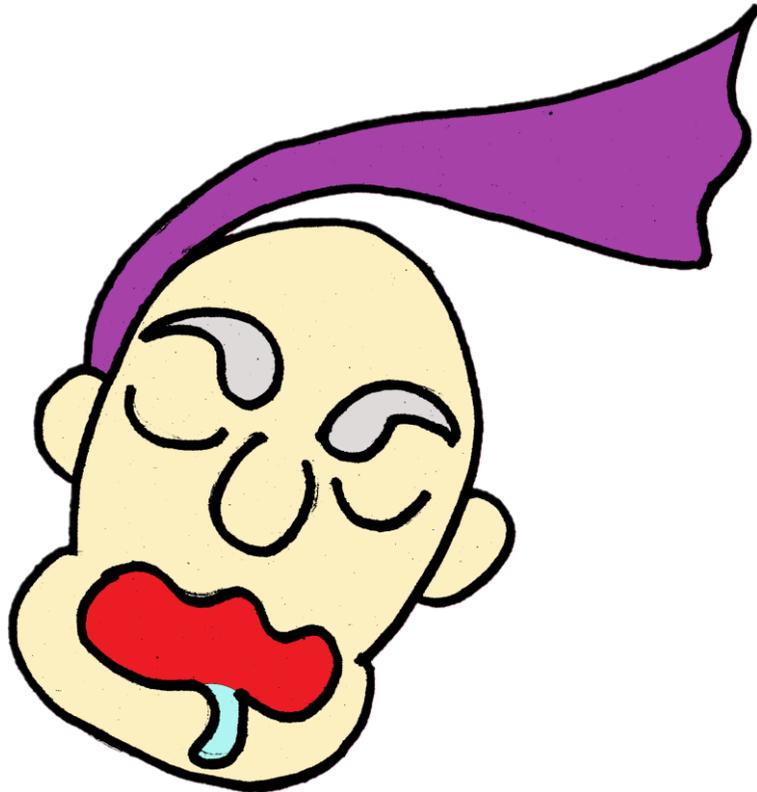


つながるの昔っこ27 (昔話)

和尚様と小坊こ② (標準語)

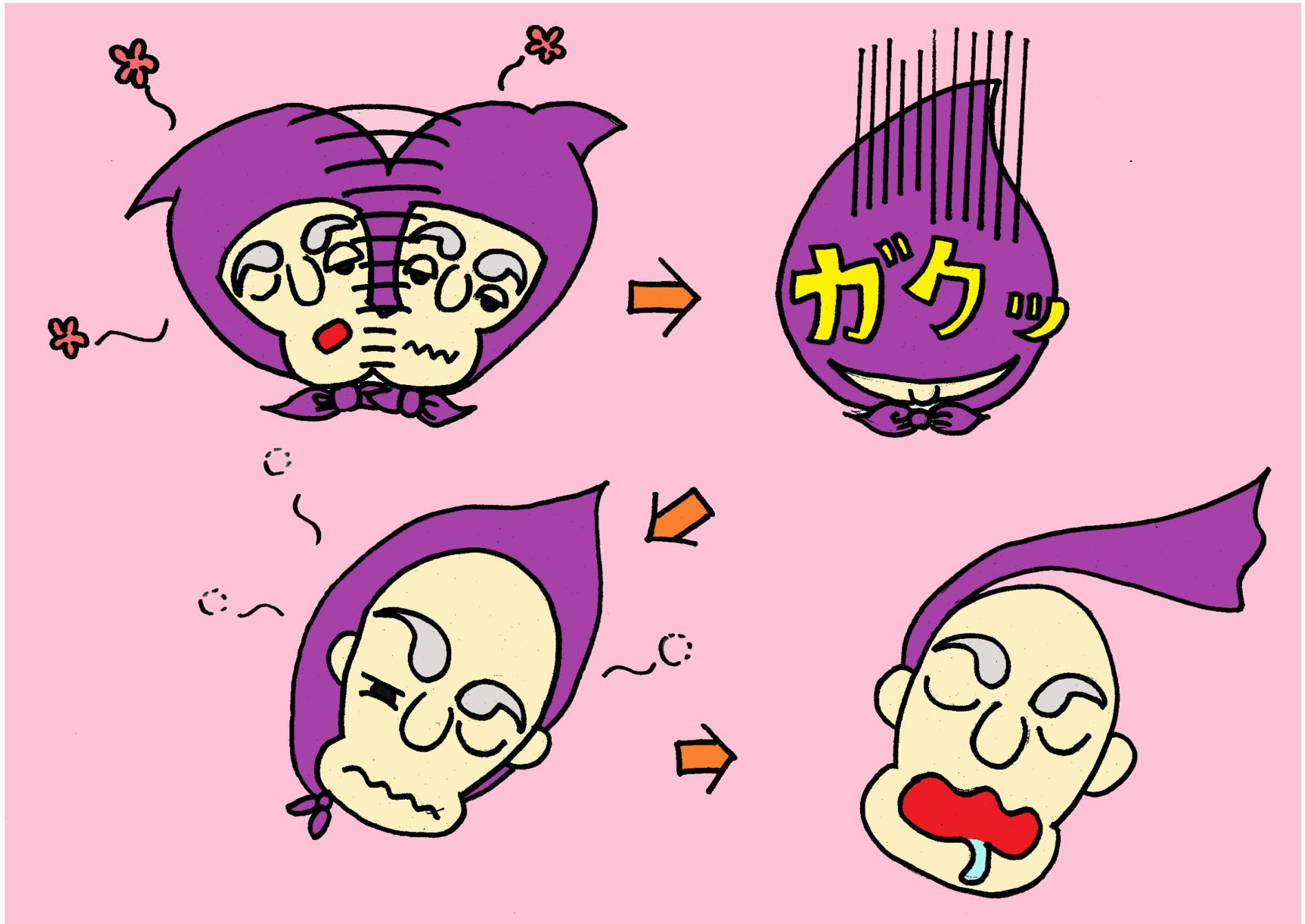


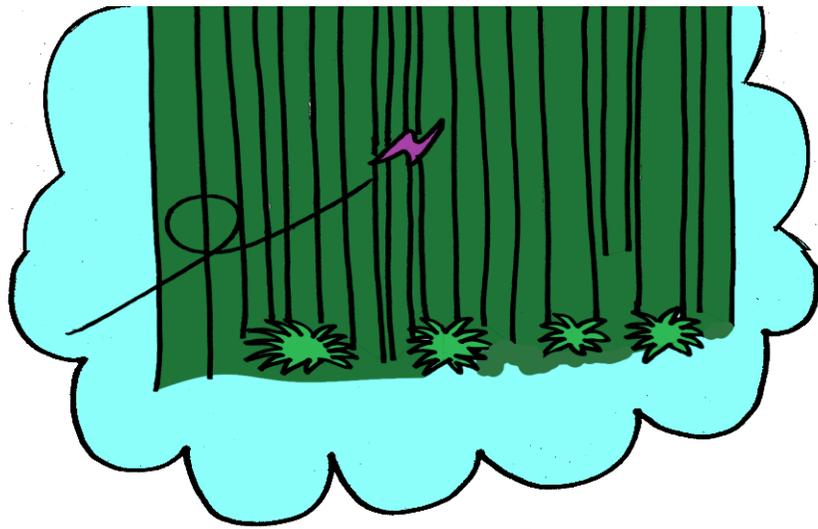
国土交通省 東北地方整備局
岩木川ダム統合管理事務所
イラスト：うじいえひろみ
カラーリング：みやかわみなみ



昔、山のお寺に、和尚様と小坊主がいました。
ある日、和尚様は檀家の法事に呼ばれて、小坊主をお供にして、馬に乗って出かけました。
ウグイスがホーホケキョと鳴く、気持ちのいい春の日でした。

馬の背中で、ポックリポックリと揺れているうちに、和尚様はウトウトと居眠りを始めました。コックリ、コックリ眠っているうちに、和尚様がかぶっていた頭巾がだんだんとずれてきて、ついに頭から落ちてしまいました。





だいぶ進んだところで、頭がスースーと涼しくなったと感じて、和尚様が目を覚ますと頭巾がありません。

『小坊主、小坊主、私の頭巾知らないか?』と聞くと、小坊主は『さきほど、頭から落ちて、土手の藪の方へ飛んで行きました』と言いました。



和尚様は、かんかんに怒って

『なんて馬鹿な小坊主だ、走って戻って探してこい！！』と拾いに行かせました。

小坊主は走って行き、藪（やぶ）の中から探し出して持ってきました。

和尚様は「これからは、馬から落ちたものがあつたら、何でも拾っておけ」と言いつけて、また頭巾をかぶって進みました。

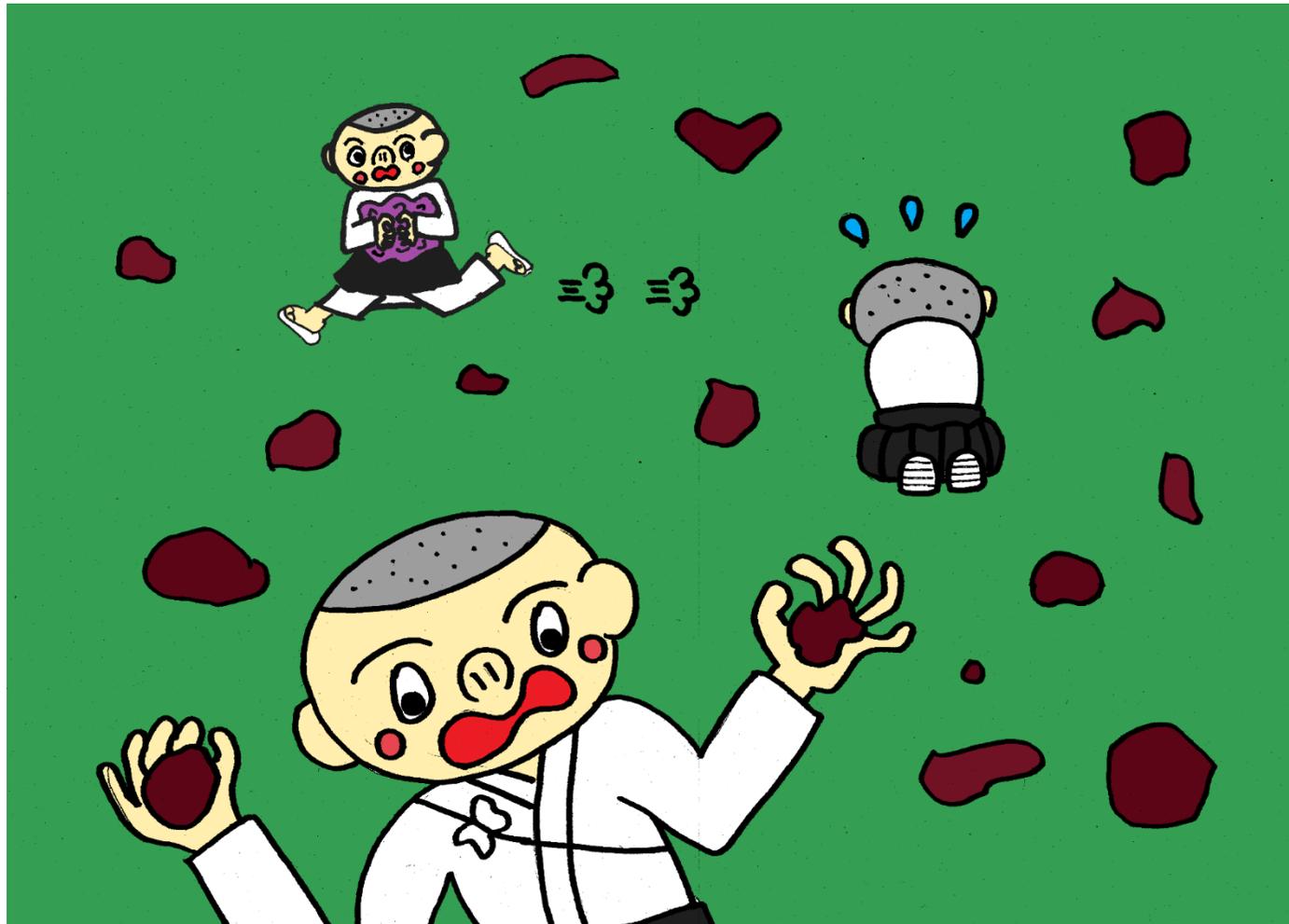


パッカパッカと歩いているうちに、和尚様は、またコックリコックリ、舟をこぎはじめました。
するとまた、頭巾がずれて落ちました。

小坊主は和尚様に言われたとおり、落ちてきたのを拾って、馬のあとを歩きました。

すると、馬は、しっぽをボンと上げて、馬の糞をポトポトと落としました。

小坊主は、馬から落ちたものは全て拾えと言いつけられていたので、その馬の糞を全て拾い、
入れるものがなかったのに、和尚様の頭巾いっぱいに入れて持って進みました。



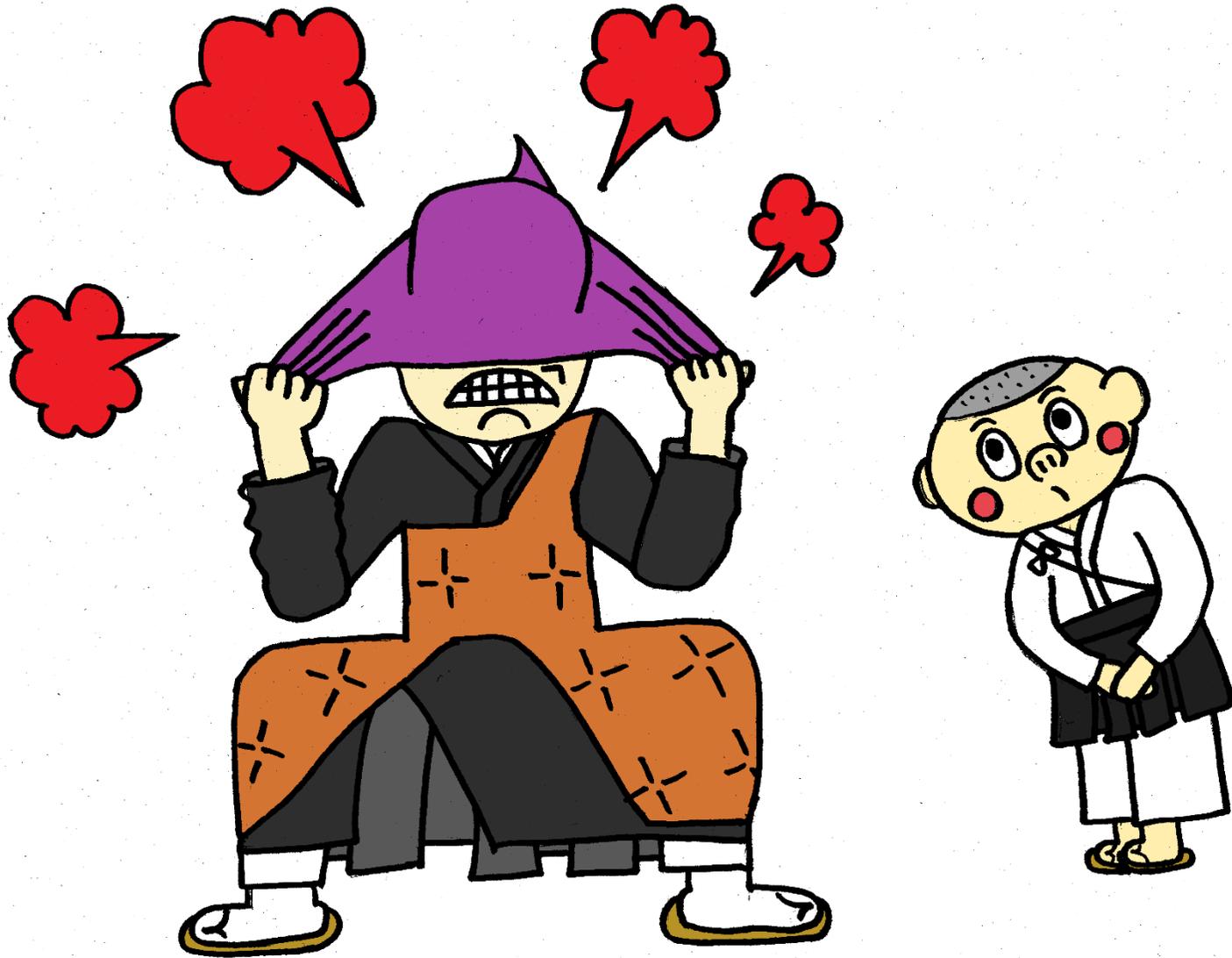
そうこうしているうちに、檀家の門の前に到着しました。
檀家の旦那様が迎えに出てきました。

『和尚様、和尚様、よくぞいらっしゃいました』と言いました。

和尚様が馬から降りると、頭の上に頭巾がありません。

あわてて見ると、小坊主が大事そうに持っていました。

和尚様は『こっちへよこせ!』と言い、小坊主から頭巾をグイッと奪い、勢いよくかぶりしました。

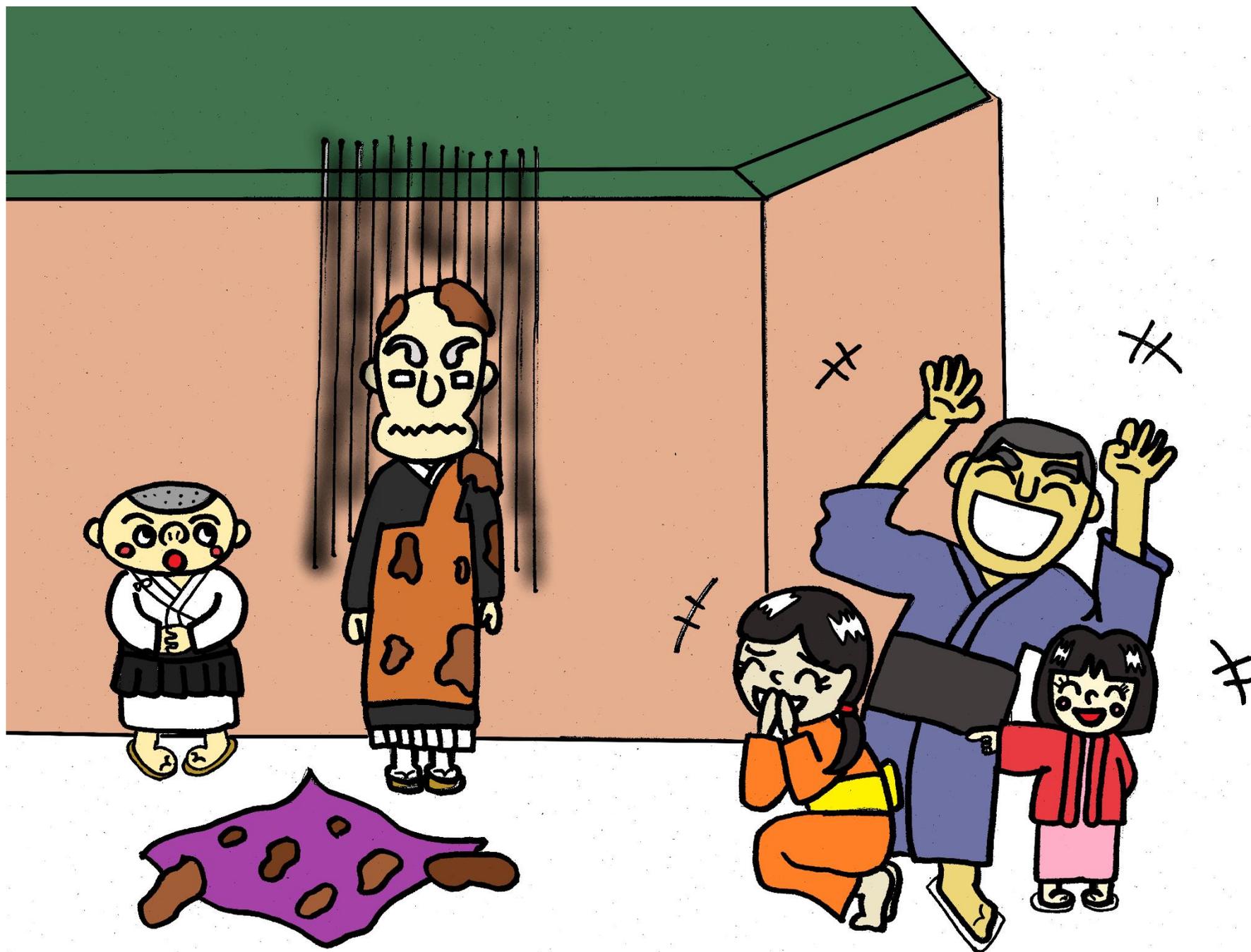


すると、頭の上から馬の糞がボタボタ落ちてきました。

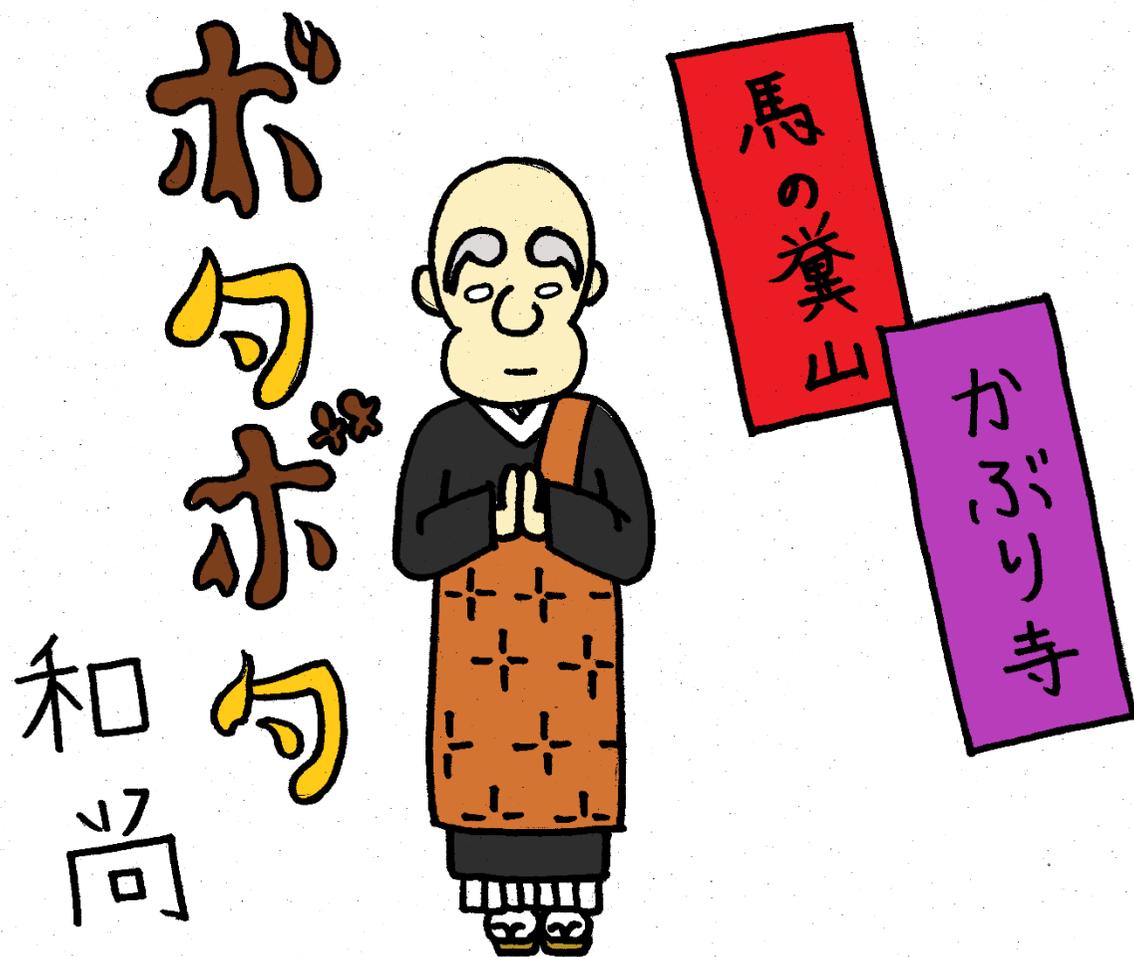
頭も顔も馬の糞だらけになった和尚様は
『何だ！何だ！お前、何をした?!』と、かんかんになって小坊主を叱りました。



『そう言われても。和尚様が馬から落ちたものは、何でも拾っておけと言ったから、私は拾って持って来たんですよ』と言ったので、檀家の人達も、面白くて、どっと笑いました。



それからというもの、この山寺の和尚さんのことを「馬の糞山 かぶり寺」のボタボタ和尚と呼ぶようになりました。



これも臭くて面白い話だね。